

第4回橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会 会議録

会 議 名	第4回橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会会議
日 時	令和6年2月28日（水）13時30分～16時10分
場 所	橋本市民会館2階 第3AB会議室
出席者 （敬称略）	堀内 秀雄 乾 幸八 平家 利也 田村 亜美 森田 知世子 玉井 勝代 佐藤 陽子 今田 実 小原 秀紀 岩澤 晃臣 岸田 昌章 芝 一與 戸島 浩子 中谷 維志 東 美樹 平田 敬二 福澤 稔 向 律子 【出席委員：18名】
欠 席 者 （敬称略）	前田 陽一郎 井西 三知子 【欠席委員：2名】
事 務 局	総合政策部長 土井 加奈子 地域振興室長 鈴木 淳司 地域振興室長補佐 前川 朋久 地域振興係主査 上原 慎太郎
次 第	1. 開会 2. 報告 ① すこやか橋本まなびの日 ② 自治と協働の職員研修 ③ 協働に関する職員アンケート ④ 地域運営組織 資料1 報告事項一覧 資料2 はぐくむサポーター通信 資料3 協働に関する職員アンケート調査結果 資料4 地域運営組織説明資料 3. 議事 ① グループ活動の進め方 （情報共有・市民参画・協働のまちづくり） ② 自治と協働の実践団体の取り組み 資料5 協働実践団体について 4. その他 ① 次回日程調整 5. 閉会

1. 開会

- 委員 20 名中 18 名出席により、委員会が成立していることを報告。
- 傍聴者 1 名。
- 議事録署名人は森田知世子委員、佐藤陽子委員。

2. 報告

① すこやか橋本まなびの日

令和 5 年 11 月 12 日(日)に開催された「すこやか橋本まなびの日」でのブース出展やアンケートの結果等について、事務局から報告を行った。

○ 委員意見等

- 振り返りアンケートの内容は早めに委員と共有した方が良いのでは。

○ まとめ

- イベント後に委員を対象に実施した振り返りアンケートの内容は事務局で整理し、令和 5 年度中に委員と共有する。
- 第 5 回はぐくむ委員会でアンケート内容を踏まえた実施内容の検討を行う。

② 自治と協働の職員研修

令和 5 年 11 月 20 日(月)に実施した市の職員を対象にした研修の結果について、事務局から報告を行った。

○ 委員感想

- 今年度の反省を来年度の具体的な改善につなげていきたい。
- 部署ごとの問題点について勉強させていただいた。
- 初めて参加させてもらい、普段話す機会のない職員と交流をとれてよかった。
- 思っていたより出席者が少なかったのが残念だった。
- 本研修は市職員の研修を市民が企画するという意味で画期的。成果を出していく必要がある。

③ 協働に関する職員アンケート令和 5 年 11 月 28 日から 12 月 13 日で実施した職員（会計年度任用職員を含む）805 名を対象にしたアンケートの調査結果について、事務局から報告を行った。

○ 委員意見等

- アンケート項目は事務局で考えたのか。
 - 1 回目のアンケート実施時（令和 3 年度）に協働のまちづくりグループと事務局でアンケート項目を検討し委員会で決定しており、当初からアンケート項目に大幅な変更はない。

- 近年、公民館行事に参加している職員が増加しているように感じ、協働への意識の高まりが見える。
- 退職等で職員の入れ替わりがある中で、条例認知度でこの率を維持しているのは評価できるのでは。アンケート結果については分析を行い、改善などの提案ができればなおよい。

④ 地域運営組織

橋本市の自治と協働をはぐくむ条例（以下、「条例」という。）第10条及び附則に記載されている地域運営組織に関し、地域運営組織検討懇話会（以下、「懇話会」という。）でこれまでに検討してきた内容について、事務局から報告を行った。

○ 委員意見等

- 令和5年度地域支援力向上セミナーは地域運営組織への理解を深める意味もあったのではないかと考えているが、その総括が必要ではないか。
- 第2層協議体を核とした地域運営組織設立を目指すのであれば、第2層協議体の方に地域運営組織について、理解してもらう必要があるのではないか。やれるところから取り組む方が良い。
- 橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会（以下、「委員会」という。）の懇話会に対する役割は情報共有と意見具申でよいと思うが、そのような場を設けてほしい。
- 地域運営組織の設立にあたって、担い手の研修が開催できれば良い。
- 懇話会、第2層協議体はコロナによって、思うように協議ができなかった経緯がある。地域運営組織の検討については、事務局がもっとリードしてほしい。
- 地域運営組織の設立要件等について懇話会で具体化してほしいと考えていたが、令和6年3月で解散するのか。
 - 懇話会の任期は設立要件施行日（4月1日）までだが、委員には解散以降もご協力いただきたい旨依頼をしている。
- 地域運営組織を市民参画で推進する仕組みを行政側でも検討してほしい。
- 懇話会解散後に新たな会を設けるより、懇話会を継続させる方が良いのでは。

○ まとめ

- 地域運営組織については懇話会が主管する。委員会は懇話会と連携しその活動を支援していく。ただし条例全体の進行管理は引き続き委員会が主管する。
- 懇話会は当初の目的を達成したため解散となるが、4月以降も意見を聴取するため招集する可能性がある旨、同委員には依頼済み。
- 地域運営組織について、令和6年4月以降も継続して審議するための仕組みを事務局で検討し、その内容を第5回委員会で報告する。

3. 議事

① グループ活動の進め方（情報共有・市民参画・協働のまちづくり）

各グループの進捗状況や今後の進め方について委員会内で共有した。

○ 情報共有グループ

- ・ グループ活動はあまり進んでいないが、今後の方針について確認を行った。
- ・ 「協働」を知らない方へのアプローチを考えている。子どもが分かれば、大人（親）も分かるため、そこを中心に考えていきたい。
- ・ 市公式 LINE の評判が良いため、情報共有の検証を行うにあたり、LINE から取り組みたい。
- ・ グループ全体で活動を行うと進捗が悪くなるため、役割分担をして進める。

○ 市民参画グループ

- ・ グループがこれまで検討してきたこと、語句（第2層協議体、アダプトなど）についての勉強会を実施した。
- ・ はぐくむサポーターの登録目的（情報収集、応援など）はそれぞれで、目的によってほしい情報も変わる。情報提供を市公式 LINE と統合できないか。
- ・ 条例パンフレット表紙のイラストを啓発物品（クリアファイル、ナイロンバックなど）として活用できないか。まなびの日での啓発時に使用するなど。
- ・ 子ども用パンフレットの作成について以前から検討していたが、子ども対象であればデジタル教材のほうが活用できるのではないか。

○ 協働のまちづくりグループ

- ・ グループ会議を一回実施し、意見を出し合った。
- ・ 今までは市民と行政の協働は行政発信のものが多く、市民からのアプローチに対して行政は乗り気ではない印象がある。
- ・ 橋本市としてどのような地域運営組織にしたいかを伝える必要がある。
- ・ 区長会に情報提供を行っているが、連携会議を実施するのはどうか。
- ・ 区同士が連携に苦慮する際に、地域運営組織が補助できるようになれば良い。
- ・ 後継者不足が深刻であるため、人材育成が必要。
- ・ 職員研修での職員提案を実践することで、職員のやる気につなげるため、アンケートに基づいた検討を実施したい。
- ・ 第3期条例の到達状況のチェック、実践の方法論について協議をしていきたい。

○ まとめ

- ・ グループの進捗状況は必要に応じてグループ長会議を実施して確認する。
- ・ これまでの提言書に記載された事項は委員会として実施していくことが大前提であるが、1期（2年間）ですべてを実施できるとは限らないため、取捨選択や優先順位をつけて取り組んでいく。
- ・ 令和6年度は提言書を作成するため、提言案作成部会を設け検討する。

② 自治と協働の実践団体の取り組み

資料5 協働実践団体について

年度当初から検討を進めている協働実践団体について、事務局から説明を行った。

○ 事務局説明

- 団体の名称は「はしもとプラチカ（以下、「はしプラ」という。）」
- 「はしプラ」は令和6年4月に設立するが、それに先駆け2月にInstagramアカウントを作成し、広報を開始している。
- 令和6年度は連続講座の「チャレンジ!! はしもとみんなでボランティア（以下、「みんボラ」という。）」を実施する。

○ 委員意見等

質問に対する回答は、「はしプラ」について検討を行っている東委員が行った。

- はしプラと地域運営組織との関係は。
 - 地域運営組織を設立した際に活躍できる担い手を育成したいと考えている。そのため、「はしプラ」が直接地域運営組織に関わることはないが、そこに関わる人材を輩出していけたら良いと考えている。
- 「はしプラ」の規模、「みんボラ」の対象者、活動内容は。
 - 「はしプラ」は現在5名で活動しており、「みんボラ」はその中の事業のひとつとして位置づけられる。今後活躍していただきたい20・30代の方、子育て世代の方に参加いただきたいと考えて、内容を検討している。
- 「みんボラ」に参加することで、「はしプラ」に加入する、地域活動に参画するなどの行動につながればよいと考えている。
- 社会福祉協議会にボランティアサークルがあり、ボランティア講座を実施しているが、新規に講座を実施する旨声掛けなどは行ったのか。
 - 事務局から社会福祉協議会にボランティアサークルに声掛けが必要か確認する。
- 参画意識を持っている方の中には、「ボランティア」よりも例えば市民活動などの呼び方で表現してほしいとの声もある。
- 将来は地域で何か活動を行いたいと考えている。皆の話を聞き、「みんなでボランティア」というよりは「みんなで地域活動」を目指したほうが良いと感じた。
- まちづくり、地域づくり活動の実践であることを明確にした方が良いのでは。
- 自分たちのことは自分たちで行う「自治」の考え方が忘れられがち。
- 目的を明確にし、読むと参加したくなる簡潔な要綱を作成したほうが良い。
- 多くの自治体では地域づくり活動の中心は公民館。
- 要綱はコンパクトにやわらかく本質をかいてほしい。
- 講座を受けて楽しい終わらせないで、学んだことと人をつなぐ実践的な講座にしてほしい。

○ まとめ

- 名称は「はしプラ」で再検討する。
- 協働実践団体に関することは地域振興室が中心に検討を進める。
- 委員会もいつでも協力するため、必要あれば声をかける。
- 令和7年度は具体的な地域実践やネットワークの構築に取り組む。
- 第5回委員会で報告を行う。

4. その他

① 次回日程調整

SNS を用いて日程調整を行う。

② SNS の活用について

- 現在は事務局からの連絡が主だが、今後は委員からの事務局へのやり取りにも活用する。
- 会議まで期間がある場合は SNS で資料の共有などの情報共有につとめる。

③ まちづくりアンケート

- 政策企画課で無作為抽出された市民 2,000 人を対象に毎年実施しているもの。
- HP に掲載されているため、よければご覧ください。

④ 広報記事

- 当初は令和6年5月の広報はしもとに委員会から記事を掲載する予定だったが、スペースの関係で延期となる。
- 記事内容は担当の市民参画グループと調整する。

5. 閉会

以上

【会議録署名欄】

委員長

堀内秀雄

【会議録署名欄】

委員 森田 知世子

【会議録署名欄】

委員 佐藤 陽子